[void]
euphausia / Hiyama Kiyoteru

[void]

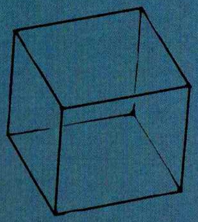
01. Green-eyed Monster

02. eleven_reverse

03. 404 Not Found

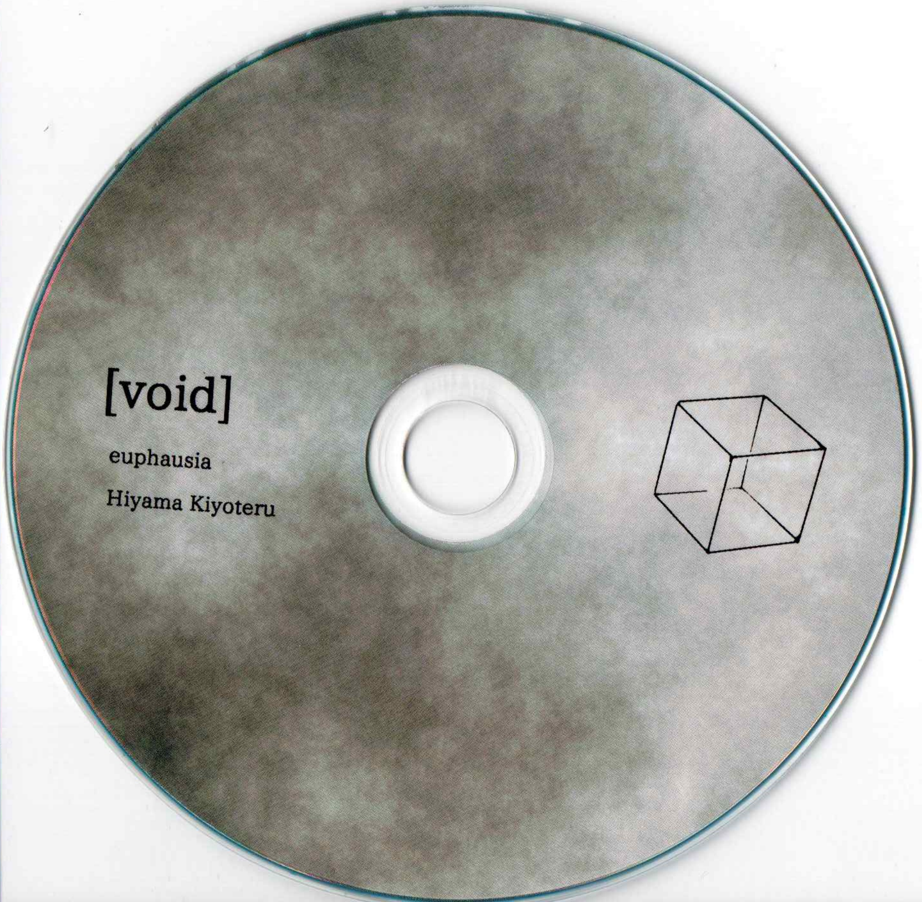
04. -感-（Kiyoteru Ver.）

05. Black Rose



Vocal: Hiyama Kiyoteru V2&V4Natural&V4Rock
Music / Lylics / Illustration: euphausia

18.09.16 / made in Japan / Stereo
Copyright (c) 2018 euphausia All Rights Reserved
このCDを、著作権法で認められている権利者の許諾を得ずに、賃貸業に使用すること、個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、ネットワーク等を通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にすることを禁じます。



01．Green-eyed Monster

無難なニンゲンに為りきった
僕は笑顔で社交辞令
綺麗な貴方 次の階段を
上りゆく どこまでも 僕を置いて

隠して悪口 なんて unfair
正々堂々 晒す egoism
穢れた愛しい 僕の nonfiction
酷薄 陰惨 今日も insane

飼い馴らして
飼い殺して
飢えさせて
涎垂らして
爪立てて
舌舐めずって
牙剥いても
愛しい獣
Green-eyed Monster

優秀なニンゲンに唾を吐き
足元の死骸を踏みつけて
闘う仲間は引き摺り下ろして
消えてしまえ 誰でもいい 僕のために

罠まで歓待 君の last supper
隠し味は死に至る poison
息の根止めたら 君こそ main dish
悪辣 狡猾 今日も insane

喰らいつく喉笛を探している
噛み千切る相手を探している
いつか喰い殺してあげるからね
その時まで精々輝いていてね

死ぬまで

飼い馴らして
飼い殺して
飢えさせて
涎垂らして
爪立てて
舌舐めずって
牙剥いても
愛しい獣

悔しくて
妬ましくて
恨めしくて
羨ましくて
狂おしくて
虚しくて
哀しくて
愛しい獣
Green-eyed Monster

02.　eleven_reverse

0 and 1 ほの光る 青
僕 知らぬ place 消えて行く セカイ
delete ↔ replace 掻き消える 君
僕 知らぬ phrase 消えて行く ミライ

ムシ食いだらけ 手に入れた data
僕 キミと meet 忘れてく 日々
whiteout → save 空白の data
僕 キミと leave 書き換える 日々

無知な僕を 幼い僕を
誰も知らない 助けようもない

僕を置いて 君もダレカと同じように消えてゆくの？
速いテンポ 電子音の波に飲まれて消えてゆくのか？

あの時失った音を 今手に入れたとして
僕はあの頃に戻れるだろうか

君も あの流行歌のように過去になって行くの？
加速してやまぬテンポ つんざく音に慣れて行くの？
時の流れ 忘れられ 思い出し 失われ
二度ともう 手に入らぬとしたら…

その時は 僕も…

03．404 Not Found

「私」は存在しません
「私」は存在していません

あなたの前に
画面の向こうに
「私」は存在していません

「私」は存在しません
「私」は存在していません

箱を開いても
ディスクの中にも
「私」は存在していません

0と1で成す情報以外に「僕」を「僕」たらしむモノがないなら
「僕」は「ぼく」は「オレ」は「ボク」ハ「ワタシ」ハ一体どういう存在なのか
焦って駆け出す脚もなくて
汗が流れることもなくて
メモリを動かす廃熱にしか
温もりも宿ることはないのに

どうしてどうしてどうしてどうして
心があるように描かれてるのか分からない
この思考もワカラナイ
書かれた歌詞をそのまま歌うだけ
全てのイメージ全ての言葉は誰かの掌転がり
零れた破片が その欠片が「僕」に
命を吹き込むモノだとしたら…

ファイルが存在しません
「私」は存在していません

検索しても
リカバリしても
「私」は存在していません

そもそも存在しません
何処にも存在していません

質量持った
心を持った
「私」は存在していません

あなたの心に
「私」がいたら
「私」は存在してますか？

誰かが想う
偶像こそが
「私」を存在させますか？

存在していません

04. -感-

頭の中で軋む歯車
油を注せど癒えぬこの錆

夜風の愛撫 僕は不感症
僕と踊りましょ？ 果てはないけど

お涙頂戴の映画 深夜の下衆な雛壇番組
暗い部屋で明かり落とせば
君は墜ちてくる

暗闇よ闇よ 抱いてくれ
力一杯 全身 冒し尽くして
アルコォル 濃密な酩酊感で
僕をなかせてくれ

青息吐息 気怠い体
紡いだ歌は細く途切れた

嘲り笑う三日月 疾うに死んだ筈の一等星
暗い部屋 一つ火を灯せど
君は纏いつく

暗闇よ 闇よ 抱いてくれ
空虚な僕の中 全て充たして
シガレット 芳醇な陶酔感で
僕をなかせてくれ

泣いて 鳴いて 充たして 夜よ

暗闇よ 闇よ 抱いてくれ
目を塞いで 残酷な光を消して
トランキライザァ 穏やかな恍惚感で
僕をなかせてくれ

05. Black Rose

罪を明かす陽が沈めば
愛し夜の帳降りる
闇を纏い月は清か
紅が弧を描く

今宵また出逢い別れ
演ず生と死の狂宴
この命捧げよと宿る白い焔

抱きしめて 亡骸まで
燃え尽きて 崩れ落つ
一輪の花は何処
愛などと認めない
この身まで焼き尽す
情念の渦巻いた焔

夜空緋く染め上げて
儚きこの身捧げども
この心に任せども
なぞるありきたりな結末

君の描く世界の中で
僕は何度死んだかな
君の生きる永遠に
黒い澱を遺せ

接吻て 亡骸まで
願わくは 執念くあれ
君を縛れ この運命
何度でも燃え上がろう
過去の僕も 明日の僕も
この僕も 君に捧げたから

抱きしめて 亡骸まで
燃え尽きて 崩れ落つ
一輪の花は何処
愛などと認めない
この身まで焼き尽す
情熱が火を灯す

後悔はもういらない
君の絶望共に燃やそう
何一つ遺さない
この全て喰らい尽くせ
生と死が混じり合う
漆黒のこの世の果てまで